

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月25日

中国運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
三次市地域公共交通会議	備北交通株式会社	市街地循環バスくるん (三次町循環) (南畑敷町循環)	【共通】 ・公共交通の新規利用者を創出するため、福祉部門と連携し、介護支援専門員(ケアマネジャー)向けの研修会において、路線バス等の利用促進に係る市の支援事業(高齢者運転免許自主返納支援事業、三次市相乗りタクシー事業)の周知を図った。 【市街地循環バスくるん】 ・運行事業者が主体となり、EVバス導入にあたりPRを行った。 ・保育園による路線バスを活用した園児向けレクリエーションの実現に向け、運行事業者と調整を図った。 【作木線】 ・ダイヤ改正に合わせて、町内の広報紙等を用いて周知、PRを行った。 ・乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。 【川の駅三次線】 ・地域の要望に応えるかたちで、市内商業施設に停留所を新設した。 ・停留所の新設に合わせて、町内の広報紙等を用いて周知、PRを行った。 ・乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。 【さくぎニコニコ便】 ・運行主体と連携し、町内の広報紙等を用いてPRを行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1循環あたりの利用者数が5.4人で、目標(5.4人以上)を達成した。 また、中心市街地での通院や買い物等の移動支援を図ることができた。	【共通】 ・引き続き、地域、関係自治体及び運行事業者と協議を行い、利用状況等を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討していく。 ・引き続き、介護支援専門員(ケアマネジャー)向けの研修会等において、市の支援事業(高齢者運転免許自主返納支援事業、三次市相乗りタクシー事業)や公共交通に関する周知を図る。 ・路線バスの新たな活用方法について、関係機関等と調整を図り周知を図る。 【下高野線】 【作木線】 【川の駅三次線】 ・フリー乗降での利用方法等を周知することで利用促進を図る。 【さくぎニコニコ便】 ・引き続き、町内の広報紙等を用いて利用促進を図る。	【評価できる点】 ・園児から免許返納者まで、幅広く周知に取り組んだ点は評価できる。 ・周知にあたって、福祉部門と連携し実施した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・周知を図るとともに、実施した事業への反応や要望について利用者や地域から聞き取り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		B				1便あたりの利用者数が3.9人で、目標(4.1人以上)を下回った。 しかしながら、三次中心部への通勤・通学、通院や買い物等の移動支援を図ることができた。			
		B				1便あたりの利用者数が5.1人で、目標(5.9人以上)を下回った。 しかしながら、三次中心部への通勤・通学、通院や買い物等の移動支援を図ることができた。			
		A				1便あたりの利用者数が5.3人で、目標(4.7人以上)を達成した。 また、三次中心部への通勤・通学、通院や買い物等の移動支援を図ることができた。			
	B	1便あたりの利用者数が3.7人で、目標(4.3人以上)を下回った。 しかしながら、三次中心部への通勤・通学、通院や買い物等の移動支援を図ることができた。							
有限会社君田交通	川の駅三次線	B	1便あたりの利用者数が1.1人で、目標(2.0人以上)を下回った。 しかしながら、三次中心部への通勤・通学、通院や買い物等の移動支援を図ることができた。						
NPO法人元気むらさくぎ	作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	B	1月あたりの利用者数が41人で、目標(55人以上)を下回った。 しかしながら、三次中心部へ移動する際の路線バスへの接続、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を図ることができた。						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
廿日市市公共交通協議会	(株)廿日市カープタクシー	阿品台ルート	・再編に伴い、地元説明会の実施、パブリックコメントの募集、広報誌での事前周知等をきめ細かく行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C (目標:年間延べ利用者数) 42,407人 (目標56,900人 達成率74.5%) ※目標未達成	・R5年12月の再編後、民間バスとの一体的な運行を実施したが、まだ地域にダイヤが浸透していない可能性もあり、目標未達成となった。再編前と比較すると利用者数は増加しているため、今後の利用者の推移を注視するとともに利用促進を図っていく。	
		宮内ルート	・再編に伴い、地元説明会の実施、パブリックコメントの募集、広報誌での事前周知等をきめ細かく行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A (目標:年間延べ利用者数) 30,284人 (目標27,400人 達成率110.5%) ※目標達成	・R5年12月の再編後、民間バスとの一体的な運行も実施し利用者にとってもわかりやすいダイヤとなったことにより、目標達成となっている可能性が高い。利用者増となった要因を分析し、他ルートへの波及を検討していく。	【評価できる点】 ・路線を再編し民間バスとの一体的な運行を実施することで利用者が増加している点は評価できる。 ・支所等と連携し、介護予防事業や学校行事等の活用が増えている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・今回再編したルートについては、再編前後の利用状況や住民及び利用者の反応などを分析し、引き続き、より利便性の高い交通サービスが検討されることを期待します。
	廿日市交通(株)	原ルート	・再編に伴い、地元説明会の実施、パブリックコメントの募集、広報誌での事前周知等をきめ細かく行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B (目標:年間延べ利用者数) 30,211人 (目標32,400人 達成率93.2%) ※目標未達成	・再編前の原ルートとほぼ横ばいの結果となった。再編後のダイヤを周知するなど、利用者増に施策を検討していく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
廿日市市公共交通協議会	佐伯交通有限会社	玖島・友和線	・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に合わせ、地域公共交通計画の作成及び計画における補助系統等の位置付けの補助要件化(計画制度と補助制度の連動化)が行われたことに伴い、目標値を地域公共交通計画と整合するよう設定した。 ・はつかいち桜まつりやDENフェス、住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	(目標:年間延べ利用者数) 1,322人 (目標1,053人 達成率125.5%) ※目標達成	・新型コロナウイルスの影響が薄れ、住民の外出機会も増えたことに伴い、玖島・友和線、所山線ともに利用者数が回復し、目標達成となった。引き続き、効果的な利用促進の方法や運用の見直しを検討する。
		所山線	・はつかいち桜まつりやDENフェス、住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	(目標:年間延べ利用者数) 154人 (目標114人 達成率135.0%) ※目標達成	・住民代表が参加する会議や、イベント等でデマンドバスをPRすることで、利用者の増加を目指す。
	有限会社津田交通	浅原線	・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に合わせ、地域公共交通計画の作成及び計画における補助系統等の位置付けの補助要件化(計画制度と補助制度の連動化)が行われたことに伴い、目標値を地域公共交通計画と整合するよう設定した。 ・はつかいち桜まつりやDENフェス、住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	(目標:年間延べ利用者数) 1,134人 (目標1,262人 達成率89.8%) ※目標未達成	・利用実態等をふまえ、対象区域を「飯山」から「栗栖」に変更し、利便性の向上を図ったが、昨年の実績数は超えたものの、利用者が伸び悩みことで目標は未達成となった。 ・利用者数は全体的に減少傾向にあるため、効果的な利用促進の方法や運用の見直しについて検討する。
		中道・栗栖線	・はつかいち桜まつりやDENフェス、住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	(目標:年間延べ利用者数) 225人 (目標266人 達成率84.5%) ※目標未達成	・住民代表が参加する会議や、イベント等でデマンドバスをPRすることで、利用者の増加を目指す。
	NPO法人ほっと吉和	吉和線	・支所等と連携することで、高齢者の介護予防事業や学校行事等の活用が増加している。 ・運行事業者と、利用促進策と運行内容について検討した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	(目標:年間延べ利用者数) 1,886人 (目標769人 達成率245.2%) ※目標達成	・事業での活用や、リピーターの確保により、利用者数が増加し、目標を大幅に達成。路線定期運行バスの利用者推移を注視しながら、地域にニーズにあった運行形態を模索していく。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
府中市地域公共交通活性化協議会	株式会社中国バス	(右まわり便) 府中市役所～ 道の駅びんご府中～ 府中市民病院～ 府中市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅を交通結節点とした他路線への接続もスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。</li> <li>・日頃公共交通を利用する機会の少ない幼稚園児等とその家族に利用促進策として循環バスの飾り付けを行い、無料乗車券の配布を実施した。</li> <li>・商業施設1箇所と連携し循環バスの利用で買い物料金の割引が可能となる特典を、引き続き実施した。</li> </ul>	A	計画通り事業は適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【目標】利用者16,000人/年</li> <li>【実績】利用者14,670人/年</li> <li>・目標値に達しなかった。</li> <li>・効果として掲げた、道の駅の交通結節点とした他路線への接続はスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【右まわり便】</li> <li>・次年度目標 利用者16,500人/年</li> <li>【左まわり便】</li> <li>・次年度目標 利用者10,500人/年</li> <li>【共通事項】</li> <li>・交通系ICカードが導入され利用者の利便性向上が期待できるため、住民への周知を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価できる点】</li> <li>・バスの乗り方教室の募集を若年層に限定せず実施した点は評価できる。</li> <li>・利用促進策として、保育所園児によるバス車内の飾り付けを実施した点は評価できる。</li> </ul>
	株式会社中国バス	(左まわり便) 府中市役所～ 見晴団地～ 府中高校～ 道の駅びんご府中～ 府中市役所 車両減価償却費補助を活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年4月から路線バスの路線再編を実施し、循環バスとの接続を考慮したダイヤ設定を行うとともに、循環バスと再編路線バスとの相互乗継割引も同時に開始した。</li> <li>・令和5年9月から路線バスを対象としたバスの乗り方教室の募集を開始した。</li> <li>・令和6年4月から右まわり便に乗務員、利用者に考慮したEVバスを導入した。</li> </ul>	A	計画通り事業は適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【目標】利用者10,000人/年</li> <li>【実績】利用者 9,708人/年</li> <li>・目標値に達しなかった。</li> <li>・通院・買物・公共施設等を利用する高齢者を中心とした日常の移動手段確保につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地交通不便地域が存在しており計画策定で実施した住民アンケートの結果等を基に地域の実情に適応した運行形態について検討する。</li> <li>・市街地循環バス沿線付近の公共施設や商業施設との共同企画やイベントの開催等を検討する。</li> <li>・乗り方教室などを活用して、利用方法について分かりやすく説明していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【期待する取組】</li> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
安芸高田市公共交通協議会	株式会社 高宮中央タクシー	高宮甲田区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートを実施し、利用実態の把握と運用改善を実施した。</li> <li>・市役所政策企画課のほか市役所市民課や支所窓口と連携し、利用方法を広く周知し、利用促進を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と高齢化の進行により利用者減少傾向はあるが、高い稼働率を維持している。地域に定着すると同時に、生活交通としての機能を果たしている。</li> <li>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用登録者数はR5.10.1時点から128人(R6.9.30時点)増加した。</li> <li>・1日平均利用数は目標の111.6人に対し、105.0人(R5.10～R6.9)と目標を6.6人下回った。</li> <li>・稼働率(実運行回数/計画運行回数)は、目標93.0%に対し、95.5%であり、目標を2.5%上回った。</li> <li>・利用者アンケート「総合満足度」目標96.0%に対し、「満足・ほぼ満足・普通」との回答が96.2%で、目標を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設と連携した乗車補助券の配布、市内店舗を対象とした待合場所の確保や電話予約の手助け(電話代行など)を行う「協力店制度」の取組を継続実施し、デマンド型区域乗合「お太助ワゴン」の登録者数増と利用促進を図る。</li> <li>・帰省者、来訪者に向け、HP等で利用方法を周知するとともに、バスの問合せに対しても、バスの案内と併せてデマンド型区域乗合「お太助ワゴン」も案内し、安芸高田市の公共交通を担う重要な交通手段の1つとして市内外問わず愛用者の増加を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価できる点】</li> <li>・市内部での横断的な取組、商業施設との連携を継続し、利用登録者数を増加させた点は評価できる。</li> <li>・市内店舗を対象とした「協力店制度」を活用し、待合場所の確保や電話予約の手助けや利用促進を行なった点は評価できる。</li> <li>【期待する取組】</li> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
	織田産業株式会社 (芸北タクシー) 沖田 正	美土里区域 吉田八千代区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進のため、商業施設と連携した乗車補助券の配布、待合場所の確保や電話予約の手助け(電話代行など)を行う「協力店制度」の取組を継続実施した。</li> </ul>					
	有限会社 甲立タクシー (三ツ矢タクシー) 岩本 竜男	甲田向原区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の増加という大きな課題解決に向け、帰省者・来訪者からのバスの問合せに対し、デマンド型区域乗合「お太助ワゴン」も紹介し、希望者を利用登録した。</li> </ul>					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
三原市地域公共交通活性化協議会	双葉運輸株式会社 株式会社エフ・ジー おかの交通株式会社	①船木路線 ②北方路線 ③南方路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。</li> <li>・「コロナ後の外出ニーズの把握」については、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用ニーズや課題の把握に努めた。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成状況 収支率は目標12.0%以上に対し12.7%、利用者数は目標36.0人以上/日に対し、39.0人/日といずれも目標を上回った。</li> <li>・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移手段が確保された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、目標が達成できるよう、町内会、交通事業者、市が協働で利用PRなど普及・利用促進を継続して取組む。</li> </ul>	
	有限会社久井交通 ハイランド交通	久井路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。</li> <li>「コロナ後の外出ニーズの把握」については、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用ニーズや課題の把握に努めた。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し6.1%、利用者数は目標20.0人以上/日に対し、11.7人/日といずれも目標を下回った。</li> <li>・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移手段が確保された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や利用者のニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の久井町自治区連合会、運行を担う交通事業者、市が協働で、目標未達の要因分析に努めたうえで、利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取組む。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営主体の町内会、交通事業者、市が協働してニーズ把握に努め、継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。</li> <li>・町内会と市との意見交換の場を設定し、意見交換を行った点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、引き続き要因を分析するとともに、分析結果を活用し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
	有限会社久井交通	八幡路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用に関するリーフレットを公共施設等で配布するなど利用促進に努めた。</li> <li>・町内会と市との意見交換の場を設定し、利用上の課題の聞き取りや新規利用者獲得のため関係者が連携し周知を行うことの重要性、町内会行事と連携した利用促進の手法などについて意見交換を行った。</li> <li>・「コロナ後の外出ニーズの把握」については、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用ニーズや課題の把握に努めた。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し9.0%、利用者数は目標10.0人以上/日に対し、9.3人/日といずれも目標を下回った。</li> <li>・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移手段が確保された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や利用者のニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の八幡町内会、運行を担う交通事業者、市が協働で、目標未達の要因分析に努めたうえで、利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取組む。</li> </ul>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
江田島市公共交通協議会	榎江田島タクシー	江田島北部線(江田島町)大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統全体の収支率は15.2%となり、目標値(15%)を達成した。</li> <li>・稼働率について、目標である上下便のいずれかの稼働率50%(朝夕便は25%)に達しない便が2便あった。</li> <li>・江田島北部線第1便(上り)45.5%(下り)6.3%</li> <li>・第3便(上り)11.9%(下り)11.9%</li> </ul> <p>・沖美北部線・沖美南部線・江田島北部朝夕便においては、全便が目標を達成している。</p> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の通院や買物など、特に高齢者の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保された。</li> <li>・棧橋で広島行き航路と接続されていることにより、広島市への移動手段確保及び外出機会の創出につながった。</li> </ul>	<p>【目標に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の利用者数を維持できれば、系統全体の収支率の目標値は引き続き達成できる見込みである。</li> <li>・稼働率の目標を達しない便は、4便から2便に減少したが、江田島北部線(朝夕便を含む)の稼働率は低迷が続いている。おれんじ号等に無料で乗車できる「おでかけ無料乗車day」を行い、需要喚起を図るとともに、運行地域での出前講座の実施など、効果的なモビリティ・マネジメントを引き続き実施する。</li> </ul> <p>【統括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おれんじ号を利用したことがない人や利用の仕方が分からない人に、広報誌や出前講座などを活用して、その仕組みや利用方法を運行事業者と連携して分かりやすく説明していく。</li> <li>・市民生活を支えるため、必要なサービス水準を維持するとともに、引き続き、航路とバスとの接続や移動ニーズに対応した最適なダイヤ編成を行っている。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の活用や時刻表の全戸配布などにより利用促進・維持が図られている点は評価できる。</li> <li>・利用促進策として無料乗車dayを実施し、目標を達成した便を増やした点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・地域と連携協働し、より効果的なモビリティ・マネジメントが検討・実施されることで、更なる需要喚起が図られることを期待します。</li> </ul>
	榎江田島タクシー	江田島北部線(朝夕便)(江田島町)大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			
	三高タクシー	沖美北部線(沖美町・能美町)美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			
	南能美タクシー	沖美南部線(沖美町・能美町)三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
広島市陸上交通協議会	事業者: (有)やぐちタクシー 運行系統: 系統①	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～フレスタロ田南店前(8.8km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数3.4人という目標に対し、令和6年度の実績は3.9人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)やぐちタクシー 運行系統: 系統②	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～上矢口上(10.0km)						
	事業者: (有)中野タクシー 運行系統: 上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数4.5人という目標に対し、令和6年度の実績は4.8人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)中野タクシー 運行系統: 山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路11.3km,復路11.3km)						
	事業者: (株)フォーブル 運行系統: 大塚西	下城ハイツ上～大原駅・Aシティ中央～下城ハイツ上(13.6km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数3.7人という目標に対し、令和6年度の実績は3.9人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)カオル交通 運行系統: 系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数4.6人という目標に対し、令和6年度の実績は4.7人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者: (株)カオル交通 運行系統: 系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(12.0km)						

【評価できる点】  
 ・地元広報誌での紹介や、スーパーと協力した割引制度を実施したことは評価できる。  
 ・新決済システムとマイナンバーカードとの連携による実証実験に取り組んだことは評価できる。

【期待する取組】  
 ・より利便性の高い交通サービスの提供がされるよう、引き続き関係者と連携協働が図られることを期待します。  
 ・現在の利用者の動向について分析し、必要なサービス水準の維持と併せ、利用者以外の住民等からの意見も把握することで、新たな利用者の獲得が図られることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
広島市陸上交通協議会	事業者:つばめ交通㈱ 運行系統:系統1	ユアーズ～福田停留所(上)～ユアーズ(9.4km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	A	1便当たりの平均利用者数2.6人という目標に対し、令和6年度の実績は4.3人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者:つばめ交通㈱ 運行系統:系統2	ユアーズ～福田停留所(上)～セブンイレブン(11.5km)					
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56010)	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館(28.6km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行った。	A	A	1回当たりの平均利用者数8.0人という目標に対し、令和6年度の実績は8.8人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館(27.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)					
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校(9.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:2台	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行った。	A	A	1回当たりの平均利用者数6.1人という目標に対し、令和6年度の実績は6.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店(7.9km)					



協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
東広島市地域公共交通会議	JRバス中国株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの平均利用者数は12.9人であり、目標の12.9人を達成できた。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は5.7%程度増加している。 引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。	【評価できる点】 ・路線沿線の協力店舗と連携し周知活動、公共交通の利用促進を図る取組を継続、拡大している点は評価できる。 ・地域のサロンと連携し、乗車券の配布や説明会の開催により利用促進を図った点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・新たに運行を開始した2事業について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの平均利用者数は12.9人であり、目標の12.9人を達成できた。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は5.7%程度増加している。 引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。	
	JRバス中国株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行(6系統) ①渋・長貴～ショージ～黒瀬支所線 ②渋・長貴～黒瀬支所線 ③八畝ヶ畑～黒瀬支所線 ④洋国団地～黒瀬支所線 ⑤檜原～黒瀬支所線 ⑥上条～黒瀬支所線	R4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果を基に、運行改善策を検討する等、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの平均利用者数は3.0人であり、目標の3.2人を達成できなかった。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は3.4%程度増加している。 R4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、R5年度に実施したサロンでのヒアリング結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
東広島市地域公共交通会議	有限会社白市交通	旧系統(～8月) おまるめ山バスの運行(6系統) ①大原～大原東団地線 ②大原東団地～大原線 ③大原～上条ハイツ～大原東団地線 ④大原東団地～白市ショージ前線 ⑤惣田地～扱和線 ⑥扱和～惣田地線  新系統(9月) おまるめ山バスの運行(8系統) ①大原中～あおぞらばん屋さん・門川内科医院 ②大原東団地～なんぶ内科医院 ③白市駅～大原中 ④あおぞらばん屋さん・門川内科医院～大原東団地 ⑤惣田地南～白市ショージ前 ⑥扱和～白市駅 ⑦白市駅～惣田地南 ⑧白市駅～扱和	-	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	1便あたりの平均利用者数は1.0人であり、目標の3.0人を達成できなかった。	地元運行協議会主体にて、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行い、策を実行する。地域や路線沿線施設を巻き込んだ地道な取り組みを継続、拡充する。	
	有限会社八本松タクシー	志和ホテル交通の運行(3系統) ①西志和地区 ②志和堀地区 ③東志和地区	-	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの平均利用者数は1.4人であり、目標の2.1人を達成できなかった。	運行継続に向けて需要を掘り起こすため、地元運行協議会が実施したアンケート調査結果等をもとに、運行改善を行う。併せて、地元運行協議会による移動に困っている人の個別訪問等の草の根的な利用促進策についても実施する。	
庄原市地域公共交通会議	備北交通株式会社 下高野線	1日 平日4往復、土日祝2往復	運行事業者と協議のもと、地域内の生活交通路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.9人以上としていたが、実績は5.1人であった。	目標値に達していないが、住民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。	【評価できる点】 ・継続的にバスマップの配布や運行事業者の協力により「乗り放題バス」発売による利用促進を図っている点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
坂町地域公共交通協議会	坂町	坂町循環バス 坂・北新地線	<p>利用者からの要望に基づき令和5年7月から12月までの期間で実施した。試行運行結果に基づき、令和6年4月1日から土曜日運行を行うよう改正を行った。</p> <p>土曜日運行の実施やその他の変更に合わせて、事前告知、ダイヤ改正などを反映したパンフレットや各路線毎のポケット時刻表などを作成し、車内掲示や車内配布、町広報誌やホームページへの掲載を行うことに加え、更新したGTFSデータの公開、民間の無料乗換案内サービスであるGoogleマップの修正を継続している。</p> <p>老朽化により購入予定であった、横浜・北新地線の車両については、新規車両を購入するよう契約を完了し、納車に向けて調整を行っている。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>【1便当たり利用者数】 5,711人 未達成 (目標:7,111人)</p> <p>【年間利用者数】 19,233人 未達成 (目標:21,000人)</p> <p>1便当たりの利用者数、年間利用者数、共に未達成となっている。年間の利用者数については、昨年度と比較して増加率は半分程度となったが、1,000人近く増加している。</p>	<p>バス停の待合環境の改善のため、平成ヶ浜二丁目バス停に上屋とベンチを設置する。</p> <p>情報提供の改善のため、引き続き地図アプリとの連携について、利用者に最新の情報が提供されるようデータの更新を継続して行う。また、配布物等についてもよりわかりやすいものとなるよう、内容を確認し、修正・改良を継続する。</p> <p>横浜・北新地線の新規車両については、引き続き、納車に向けた調整を行う。</p> <p>今後も、現在の運行を継続しながら、計画的に各事業の実施に向けた調査・取組みを行い、坂町循環バスの利用促進を図り、将来に渡って持続可能な公共交通となるよう努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線図を入れた時刻表チラシの主要施設への配置や、GTFSデータを活用した民間の無料乗換案内サービスとの連携を継続している点は評価できる。</li> <li>・試行運行の結果に基づいて、土曜日運行を本格運行へ移行した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
尾道市地域公共交通協議会	岡山交通株式会社	みつぎ乗合タクシー 区域運行型	<p>(R5評価結果) 利用者数が増加傾向にあるため、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p> <p>(R6反映状況) 改善した運行内容の交換検証について関係者と協議し、一部見直しを行った。 また、関係者と連携した利用登録の促進により、登録者数の増加(約230人⇒450人)に繋がった。</p>	A	計画通り適切に実施された。	C	<p>利用者数の目標値については、大きく上回った。収支率や行政負担額については、目標値を下回っているものの、利用者数が年間約700人増加しており、アンケート結果からも将来の移動に対する不安が軽減されたとの結果が出ている。目標値については、今後見直しの必要がある。</p>	<p>学生の利用を想定したダイヤの利用者数が少ないため、引き続き地域団体や社会福祉協議会、交通事業者と連携し、利用促進に努めていく。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域代表や福祉・医療関係者と連携を図ることで利用登録者を増やした点は評価できる。</li> <li>・MaaS社会実装計画に基づき、AI配車予約システムを導入した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・利用者どうしの乗り合わせ利用についても周知・促進されることを期待します。</li> </ul>
	アシナトランジット株式会社 中央交通有限会社 中国タクシー株式会社	本郷・小原地区乗合タクシー 区域運行	<p>令和6年度新規事業のため、前回の事業評価なし。</p>	A	計画通り適切に実施された。	B	<p>利用者数・収支率の目標値については、大きく上回った。行政負担額については目標値を下回っているものの運行開始直後から一定の利用があり、住民に必要な移動手段を確保することができている。目標値については、今後見直しの必要がある。</p>	<p>乗降場所毎の利用者数に大きく差が出ているため、関係者と連携した利用促進を実施しながら、乗降場所の移設等についても検討する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
福山・笠岡地域公共交通活性化協議会	アシナトランジット株式会社 中央交通有限会社 中国タクシー株式会社	本郷・小原地区乗合タクシー 区域運行	令和6年度新規事業のため、前回の事業評価なし。	A 計画通り適切に実施された。	B 利用者数については、目標達成とならなかったが、経常収支率、市財政負担については、目標を達成している。運行開始直後から一定の利用があり、住民に必要な移動手段を確保することができている。目標値については、今後見直しの必要がある。	乗降場所毎の利用者数に大きく差が出ているため、関係者と連携した利用促進を実施しながら、乗降場所の移設等についても検討する。	【評価できる点】 ・交流館長、町内会長を含むメンバーで本郷・小原地区乗合タクシー運営委員会を設立した点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
府中町公共交通協議会	広島第一交通株式会社	清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド型乗合タクシー「うぐいす号」	住民への周知・利用促進の取り組みとして、対象地域である清水ヶ丘・桜ヶ丘地域の町内会長への利用状況の定期的な報告や、チラシの配架(スーパーや病院)を行った。また、利用実態の把握の取り組みとして、デマンドタクシーへの試乗を行い、乗務員や利用者の方の意見聴取を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標値】 令和5年度(R4.10~R5.3)の実績を踏まえて設定 ①1日あたり利用者数 ・R6年度:14人/日 ②収益率 ・R6年度:13.20%  【実績値】 ①R6 16.5人/日 ②R6 15.3%  利用者数・収益率ともに目標値を上回った。	利用者数については増加傾向にあり、地域への定着が図られてきている。それに伴い収益率も目標値を上回っている。今後は、アンケート調査などにより継続的な利用実態の把握などに取り組み、さらなる利便性向上や利用促進を検討する。	【評価できる点】 ・テレビCMの放送やスーパーや病院へのチラシの配架などにより、地域への定着が図られている点は評価できる。  【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
熊野町地域公共交通活性化協議会	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校(9.8km)  【車両減価償却費補助金】 対象車両:2台	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数6.1人という目標に対し、令和6年度の実績は6.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	【評価できる点】 ・利便性の高い交通サービスの実現に向けて、新決済システムとマイナンバーとの連携の実証実験と取り組んだ点は評価できる。 ・上記実証実験と併せて、バス運賃を半額にする利用促進策やアンケート調査によるニーズ把握と地域が抱える公共交通の課題の洗い出しを実施した点は評価できる。  【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店(7.9km)							
北広島町地域公共交通会議	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56010)	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館(28.6km)  【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	A	1回当たりの平均利用者数8.0人という目標に対し、令和6年度の実績は8.8人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	【評価できる点】 ・新たに運行するにあたって、車両をダウンサイジングした点は評価できる。  【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・現在の利用者の動向について分析し、必要なサービス水準の維持と併せ、利用者以外の住民等からの意見も把握することで、新たな利用者の獲得が図られることを期待します。	
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館(27.8km)  【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
鳥取市生活交通会議	日本交通株式会社	米里線	(R5二次評価結果) ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (目標) 目標60人に対し実績70人であり、目標を上回った。 (効果) 令和5年4月より地元の診療所及び学校を経由する路線に変更した。地域住民の広域移動を可能とする交通手段となっており、特に1月・2月の冬場の利用が伸びた。	令和5年4月からの路線変更の影響を検証しながら、今後も地元及び事業者と協議を重ねて利用促進に努める。	【評価できる点】 ・利用者のニーズに合わせた経路変更を実施している点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	日ノ丸ハイヤー株式会社	雨滝・上地線	(反映状況) ・適宜、地域と利用状況を共有するとともに、事業者と利用促進及び運行内容の見直し等について意見交換した。		B (目標) 目標4,968人に対し実績は3,131人であり、目標を下回った。 (効果) 区域運行を行うフィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、通学を中心とした地域住民の交通手段となっている。	利用者は前年度に続き減少したが、通学を中心に地域住民の交通手段として確立されている。 今後も引続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
三朝町地域公共交通協議会	三朝町	小河内線系統① 三朝町役場内～森公民館前・鎌田公民館前～実光 (路線不定期)	・町民から要望のあった徳本線の三朝中学校前停留所追加について、令和6年2月より実施。利用者の生活に寄り添ったバス運行となるよう、利便性の向上に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)834人/年 (実績)425人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県中部のノーマイカー運動「100金/バス」への参画や町報、ホームページ、防災無線での継続的な情報発信などにより利用促進を図っている点は評価できる。</li> <li>・利用者からの意見・要望を受け、路線の延長や停留所を追加した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
		小河内線系統② 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)1,150人/年 (実績)1,129人/年 目標は達成しなかったが、下校する児童等の移動手段を確保維持することができた。	
		小河内線系統③ 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)50人/年 (実績)13人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
		穴鴨線系統① 三朝町役場内～三朝小学校前・若宮集会所前・各(村中)～大谷入口 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)827人/年 (実績)969人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
		穴鴨線系統② 穴鴨公会堂前～運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)965人/年 (実績)804人/年 目標は達成しなかったが、学生や高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
		穴鴨線系統③ 大谷入口～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)131人/年 (実績)182人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	日ノ丸自動車	穴鴨線系統④ 大谷入口～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)955人/年 (実績)1,244人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
		穴鴨線系統⑤ 木地山～上西谷上・三朝小学校前～三朝町役場内 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)6,596人/年 (実績)6,750人/年 目標を達成した。通学する児童等の移動手段を確保維持することができた。	
	三朝町	徳本線 三朝町役場内～徳本～三朝温泉病院 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)344人/年 (実績)329人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
江津市地域公共交通会議	江津市	松川波積線 川平駅～久坪～上津井～波積診療所 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり5.2人以上に対して、2.7人であった。 ※稼働率15.86%	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
	江津市	川平線 後谷～奥谷～川平駅口 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり3.6人以上に対して、2.1人であった。 ※稼働率42.17%	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
	江津市	鹿賀線 鹿賀団地～川越～桜江総合センター (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、0.2人であった。	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
	江津市	江津川平線 川平～千金～ゆめタウン江津前 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で乗り込み調査を実施したほか、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり4.3人以上に対して、3.7人であった。	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
	江津市	江津有福線 有福温泉～都野津駅～江津駅 (路線定期)	※令和6年4月1日運行開始	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、3.5人であった。	新規利用者等の拡大に向けて住民と連携しながら、目標値の維持に努める。

【評価できる点】  
・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。

【期待する取組】  
・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。  
・住民へヒアリングやアンケートを実施し計画へ反映するなど、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。



協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
雲南市地域公共交通協議会	島根県雲南市	吉田ルート (吉田～菅谷)	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は3.4人で、目標1.5人以上を達成した。 ・アンケートによる住民満足度は51.7%で、目標値59%に届かなかった。  (効果) 日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。	【評価できる点】 ・目標に住民満足度を設定することで地域のニーズを把握し、継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。  【期待する取組】 ・1運行あたりの利用者、住民満足度ともに前年度から減少しているため、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		田井ルート (吉田～杉戸)	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は4.1人で、目標1.5人以上を達成した。 ・アンケートによる住民満足度は51.7%で、目標値59%に届かなかった。  (効果) 日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
飯南町地域公共交通協議会	飯南町	赤名吉田線 (1日4往復)	利用者数の目標を達成するため、ニーズの掘り起こし、ダイヤ改正等を行い利便性の向上を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を3.3人以上としていたが、実績は2.5人であり、目標を達成できなかった。	引き続き、利用者数の増加、利便性を図るため、ニーズの掘り起こし及びダイヤ改正等を検討する。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
	備北交通株式会社	赤名線 (1日4往復)	運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を4.1人以上としていたが、実績は3.9人であり、目標を達成できなかった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。	
邑南町地域公共交通協議会	備北交通株式会社	作木線①	通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 1便あたりの利用者を4.7人以上としていたが、実績は5.3人であった。	(共通事項) 引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。 フリー乗降の利用方法等を周知することで利用促進を図る。	【評価できる点】 ・羽須美地域区域運行で、来訪者対応もできる体制を構築した点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
	備北交通株式会社	作木線②			B 1便あたりの利用者を4.3人以上としていたが、実績は3.7人であった。		
	NPO法人はすみ振興会 羽須美地域区域運行	羽須美地域区域運行	編成実施計画の見直しにより、邑南町の代替として運行を開始した。利用者ニーズを注視しながら運行を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 年間876人以上の利用を目標としていたが、実績は840人であった。 通院や買物のため、利用者数は、増加している。	概ね目標通りの利用状況である。現在、羽須美地域内での利用が多い。次に、作木線へ乗り継ぎ、三次方面へ行く通院への利用もある。 引き続き、利用状況を観察し、利用者ニーズに対応した運行を実施する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
川本町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線②	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A	三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A	1便当たりの利用人数目標4.0人以上に対し、実績14.1人であった	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	【評価できる点】 ・利用が最も多く見込まれる通学利用に重点を置き、ダイヤの見直しや通学に係るバス定期券の全額補助を実施した点は評価できる。
	大和観光株式会社	川本美郷線⑥	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A	三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A	1便当たりの利用人数目標4.0人以上に対し、実績6.5人であった	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	【期待する取組】 ・通学利用以外の利用向上に向け、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
美郷町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線②	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う	A	三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した	A	1便当たりの利用人数目標4.0人以上に対し、実績14.1人であった	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	【評価できる点】 ・学生以外の利用向上策として運賃助成を行っていることは評価できる。  【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、他の事業の取組も活かしながら、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	大和観光株式会社	川本美郷線③	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う	A	三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した	A	1便当たりの利用人数目標3.0人以上に対し、実績7.3人であった。	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	
	大和観光株式会社	川本美郷線⑥	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う	A	三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した	A	1便当たりの利用人数目標4.0人以上に対し、実績6.5人であった。	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	
	備北交通株式会社	作本線②	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を3.6人以上としていたが、実績は3.6人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(1)津山西循環線 (津山駅～マルナカ院庄店～PLANT5～津山駅)		A	A	<p>路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などの影響により、利用者人数がコロナ禍前の水準近くまで回復している。</p> <p>今後は、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの啓発活動、あらゆる情報媒体を活用した利用啓発や周知をすすめるとともに、「バス乗り方教室」などを積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。</p> <p>また、AIデマンド交通による二次交通の改善から利便性向上を周知し、バス利用者の増加を目指す。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICカード利用促進動画の作成やGTFSデータの整備に取り組み、利便性の向上を図った点は評価できる。</li> <li>・アンケートや実証実験を実施し、新たなニーズの発掘など状況把握に努めた点は評価できる。</li> <li>・実績値を上回る目標を設定している点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで講じてきた利用促進策の効果や実証実験の結果を検証し、引き続き、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。</li> </ul>
		(2)マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山駅～マルナカ院庄店)	<p>R5年10月にふれあいサロンでバスの乗り方教室及びバス乗車体験を実施した。講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。</p> <p>R5年10月に津山市公民館長会議において、バスの乗り方教室開催の要請を行った。</p> <p>R5年11月に津山東高校で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座の中で、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。</p>	A	B	<p>路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などを実施してきたが、目標には達しなかった。</p> <p>今後は、沿線自治体と連携した利用促進、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの啓発活動、あらゆる情報媒体を活用した利用啓発や路線再編の周知をすすめるとともに、「バス乗り方教室」などを積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。</p> <p>また、AIデマンド交通による二次交通の改善から利便性向上を周知し、バス利用者の増加を目指す。</p>	
		(3)小循環線 (津山駅～志戸部～津山駅)		A	A	<p>コロナ禍の影響により、高齢者や観光客の利用が減っていたが、城西・城東地区等の観光需要や日常利用の増加により、コロナ禍前に戻つつある。</p> <p>今後は、令和3年度から観光観点としての路線バス活用を見いだすため、観光路線に特化した経路変更の実験を行っており、本年も一定の利用が見られているが、観光路線としての側面を検討しつつ、利便性の高い路線形態の変更を検討したい。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(4)加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	<p>令和5年10月に勝北地域のボランティア団体に対し、乗り方教室を実施、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。</p> <p>R5年10月に津山市公民館長会議において、バスの乗り方教室開催の要請を行った。</p> <p>R5年11月に津山東高校で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座の中で、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。</p> <p>R6年3月に清泉公民館で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座の中で、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。</p>	A	B	<p>利用者は目標16,858人((4)はR4実績値の2%増、(5)(6)はR4実績値の1%増)に対しR6:15,430人(目標対比:91.5%)となり、目標を下回った。</p>	<p>AIデマンド交通実証実験などを実施してきたが、目標には達しなかった。                      今後は、交通系ICカードの利用促進等を進め、より一層の利便性向上やあらゆる情報媒体を活用した利用啓発や周知を進めるとともに、「バス乗り方教室」を積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。                      また、AIデマンド交通による二次交通の改善から利便性向上を周知し、バス利用者の増加を目指す。</p>
		(5)勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A			
		(6)(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A			
		(7)津山東循環線 (津山駅～イオン津山店前～津山駅)		A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
新見市地域公共交通会議	備北バス(株)	市街地循環線 上市横見～石蟹	<p>・新たな利用者の掘り起こしを行うため、昨年度に引き続き市内全世帯及び新見公立大学の学生に対して時刻表を配布した。また、乗合タクシーの実証運行を実施するにあたり、市街地循環線に結節させることで、利用促進を図った。</p> <p>・市街地循環線において、令和6年2月から交通系IC「ICOCA」を使つての決済を利用開始した。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 新たな利用者の掘り起こしを行うため、乗合タクシーとの接続などを実施し、利用促進を図った結果、利用者数103人/日の目標に対して109.43人/日と目標を達成することができた。	<p>今後も引き続き利用促進事業などの啓発活動を行い、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。</p> <p>また、より一層の利用者の確保を行うため、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うことにより、持続可能な運行を実施する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。</li> <li>・キャッシュレス決済を導入し利便性向上を図った点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・キャッシュレス決済について、利用方法の周知や接続する交通と連携した取組を期待します。</li> </ul>
真庭市地域公共交通会議	真庭市	<p>■フィーダー系統</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 蒜山～久世(1日:12便)</li> <li>② 新庄～久世(1日:8便)</li> <li>③ 北房～久世(1日:12便)</li> </ul> <p>※令和6年4月一部時刻変更</p> <p>■減価償却費等補助</p> <p>1)対象車両:4台 使用ルート:蒜山・久世 2台                   新庄・久世 1台                   北房・久世 1台</p>	<p>・利便性の向上を目指し、幹線3ルートについて、キャッシュレス決済を導入した。</p> <p>・AIオンデマンド交通のチョイソコマにわを導入し、令和5年10月からの実証運行を経て令和6年4月から本格運行に移行。</p> <p>・蒜山久世ルートについて、JR姫新線との乗り継ぎを考慮し、時刻改正を実施した。</p> <p>・市内イベントに合わせ、臨時夜間便である『ナイトまにわくん』を運行した。</p> <p>・日にち限定の運賃無料化企画『Oyenライド』を実施。岡山市の運賃無料化企画『運賃無料DAY』と日にちを合わせ、高速勝山岡山線からの無料乗り継ぎも可とした。</p> <p>・対象外路線である枝線について、令和6年4月に中和地域運行を開始。</p>	A 運行計画のとおり、事業は適切に実施された。	B <p>■フィーダー系統</p> <p>目標「フィーダー系統の年間延べ利用者数:115,000人」 ⇒実績「93,684人」</p> <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)利用者人数(前年比)</li> <li>・年間利用状況 蒜山・久世ルート:46,960人(99.4%) 新庄・久世ルート:16,993人(93.4%) 北房・久世ルート:29,731人(97.8%)</li> <li>・昨年度と比較し、若干の減少、目標としては未達成となった</li> </ul> <p>■減価償却費等補助</p> <p>目標「バリアフリー対応車両(独自基準):運行車両の85%(長期的には100%)」 ⇒実績「89.5%」</p> <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光利用の促進を図るため、運行車両19台の内、17台がバリアフリー対応車両となっている。長期的には100%を達成できる見込み</li> </ul>	<p>・市内高校生の登下校対応を基本に、JR姫新線と民間路線バスとの接続及び運転免許証を保有しない市民や高齢者の通院等、日常生活利用にも配慮した効率的で利便性の高い、公共交通を目指す。</p> <p>・補助対象外路線である枝線を含めた全体的な見直しが必要。地域運行も含め利便性の高い公共交通を目指す。</p> <p>・チョイソコマにわについて、引き続き利用者の増加やエリアスポンサー獲得に努め、更なる利便向上や制度の定着を目指す。</p> <p>・観光利用の促進を図るため、運用中のバスロケーションシステムの機能強化や周知及び活用策を検討する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道接続にあわせたダイヤ改正により利用促進を図った点は評価できる。</li> <li>・日にち限定で運賃を無料とする『Oyenライド』を実施し、実施日に併せてイベントを開催した点は評価できる。</li> <li>・夜間臨時便(ナイトまにわくん)を実施した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・「チョイソコマにわ(AIオンデマンド交通)」「キャッシュレス機器」及び「地域通貨(まにわくん)」の導入効果を検証し、利便性のさらなる向上及び新規利用者の獲得につながることを期待します</li> </ul>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
玉野市地域公共交通会議	旭自動車(株)	①玉原・和田・日比エリア ②荘内・八浜エリア	<p>・シータクやシーバスの収支率や外出頻度の向上が図られるよう、利用促進の取り組みとして、市広報誌で、利用方法と併せて、それらを利用した市内史跡等への行き方を紹介を行った。</p> <p>・シーバス運賃を一律100円から大人200円小人100円等に見直しを行った。また、このことに併せて市内公共交通全体の利便性向上を図るため、市内運行の路線バスにおいて、運賃200円均一のエリアを定めた。</p>	A	C	<p>・シータク、シーバスの利用者数について、目標125,000人/年に対して、令和5年10月から令和6年9月までの実績は                  シーバス 73,244人                  シータク 32,778人                  合計 106,022人                  であった。シータクの利用者数については、昨年度と比較して横ばいであり、シーバス路線が充実していく中で利用者数を維持できているものの、利用者数全体では、目標達成に至っていない。</p> <p>・市内の公共施設や病院への移動手段がなく不便を感じている市民の割合については、目標の8.6%以下に対して令和5年度の実績は9.7%であり、目標達成には至っていない。</p> <p>・外出する頻度が週1日以下の高齢者(65歳以上)の割合については、目標の11.7%以下に対して令和5年度の実績が12.3%であり、目標達成には至らなかった。一方で、過去の推移から一定程度の割合で外出頻度が少ない人がいるものと推測される。</p> <p>・公共交通の収支率については、シータクは横ばいで維持しているものの、シーバスが運賃見直しなどの影響により減少傾向となったことで、昨年度よりも収支率が低下し14.7%となったところである。目標の17.7%以上を達成できていない。</p>	<p>・運転免許証返納者にアンケートを実施することで、免許返納のきっかけや返納後の移動手段を把握することにより、シータク、シーバスの新規の利用者確保に向けて利用促進に繋げ、収支率の改善を目指す。</p> <p>・シーバス運賃無料デーを実施することで、シーバス利用のきっかけ作りや外出機会の創出が図られることから、シーバスとシータクの乗り継ぎ利用が増えることにより、シータクの利用者の増加を目指す。</p> <p>・シーバスについては、路線毎や年間の利用状況等を踏まえた分析を行い、便や路線再編等を検討し、より最適な運行形態を目指す。</p>	<p>【評価できる点】                  ・シーバスの運賃見直しにあたって、市内公共交通全体で取り組んだ点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】                  ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</p>
	双葉タクシー(株)	③山田・東児エリア						
	下電観光バス(株)	④田井・中央(宇野・築港)・玉エリア						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
倉敷市地域公共交通会議	楳日の丸タクシー	真備地区コミュニティタクシー事業 西ルート(区域運行) (真備町妹、尾崎、服部、箭田、市場、有井、川辺、岡田、辻田地区の一部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のホームページに、コミュニティタクシーのパンフレットを掲載し、情報発信に努めた。</li> <li>・運営委員会を対面方式で開催し、利用者の推移など、当地区の現状や、今後の利用促進が必要であることなどについて、認識を共有した。</li> <li>・利用促進及び事業のPRのため、コミュニティタクシーについて、地元説明会を開催した。</li> </ul>	A	B	利用者目標3,200人に対し2,780人、運行平均乗車人数は目標2.2人/回に対し2.2人/回、運行割合は、目標70.1%に対し73.3%、収支は、目標-2,703千円に対し-2,623千円、公的資金投入額は、目標1,247千円に対し1,311千円であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、真備地区の人口の回復状況等を加味した現実的な目標値を設定する。</li> <li>・昨年度に引き続き、地元要望がある場合など、必要に応じてコミュニティタクシーに関する地元説明会を開催する。</li> <li>・今後も地元運営委員会と連携して継続的な広報活動、利用促進活動に取り組んでいく。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線企業向けに定期券(E定期券)の配達サービスを実施した点は評価できる。</li> <li>・窓口なしで購入できる定期券 (passful)を発売した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
		真備地区コミュニティタクシー事業 東ルート(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺地区の一部)			B	利用者目標1,100人に対し1,561人、運行平均乗車人数は目標1.4人/回に対し1.7人/回、運行割合は、目標39.7%に対し51.4%、収支は、目標-1,371千円に対し-1,515千円、公的資金投入額は、目標633千円に対し757千円であった。		
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートA(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺、下二万、上二万地区の一部)			B	南ルートAについては、利用者目標3,200人に対し2,256人、運行平均乗車人数は目標2.4人/回に対し2.0人/回、運行割合は、目標66.3%に対し64.3%、収支は、目標-3,041千円に対し-2,668千円、公的資金投入額は、目標1,398千円に対し1,333千円であった。		



協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
倉敷市地域公共交通会議	両備ホールディングス株	玉島地区路線バス事業 中国能開大(路線定期運行) (新倉敷駅北口～中国能開大)	初年度のため該当なし。	A	B	利用者目標17,600人に対し17,985人、収支は、目標-16千円に対し-73千円、公的資金投入額(国)は、目標8千円に対し36千円、公的資金投入額(市)は、目標43千円に対し790千円であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の実績をもとに、今後の目標値を適切に設定する。</li> <li>・収支の改善に向け、更なる利用促進を図る。</li> </ul>
		B			利用者目標14,200人に対し9,222人、収支は、目標-719千円に対し-1,241千円、公的資金投入額(国)は、目標360千円に対し620千円、公的資金投入額(市)は、目標1,876千円に対し1,672千円であった。		
		B			利用者目標24,400人に対し6,859人、収支は、目標-587千円に対し15千円、公的資金投入額(国)は、目標293千円に対し0円、公的資金投入額(市)は、目標1,530千円に対し831千円であった。		
		B			利用者目標1,200人に対し14,062人、収支は、目標-1,011千円に対し-1,267千円、公的資金投入額(国)は、目標506千円に対し633千円、公的資金投入額(市)は、目標2,634千円に対し2,152千円であった。		
		B			利用者目標4,800人に対し2,497人、収支は、目標-484千円に対し-1,019千円、公的資金投入額(国)は、目標242千円に対し509千円、公的資金投入額(市)は、目標1,261千円に対し1,133千円であった。		
		B			利用者目標6,000人に対し10,391人、収支は、目標-68千円に対し83千円、公的資金投入額(国)は、目標34千円に対し0円、公的資金投入額(市)は、目標178千円に対し493千円であった。		
		B			利用者目標110人に対し152人、収支は、目標-39千円に対し-132千円、公的資金投入額(国)は、目標19千円に対し65千円、公的資金投入額(市)は、目標102千円に対し124千円であった。		
						玉島地区路線バス事業 ハーバーアイランド(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ入口・坂田町)～ハーバーアイランド3工区)	
		玉島地区路線バス事業 住友東(路線定期運行) (新倉敷駅～住友重機械西門)					
		玉島地区路線バス事業 駅線(路線定期運行) (新倉敷駅～玉島中央町)					
		玉島地区路線バス事業 クレ正門ハーバ-3(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ正門前)～ハーバーアイランド3工区)					
		玉島地区路線バス事業 クレ入口ハーバ-3(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ入口)～ハーバーアイランド3工区)					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
赤磐市地域公共交通会議	(有)竹内タクシー	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行(系統名 是里線、中山線、滝山線、河原屋線)	デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大という課題に対して、利用促進に向けた啓発を継続して実施した。 具体的には、2次的に啓発されていくことを意図して、目的地となる店舗や診療所へ時刻表を持参して制度説明を行った。また、現地で利用者の利用頻度・利便性について聞き取りを行った。バス利用促進のためR5.9からR6.2まで、広報紙に市民バスお試し乗車券を刷り込み利用促進を図った。令和6年2月から、民間バス路線等運賃割引専用ICカード「ハレカハーフ」事業を実施。対象者は65歳以上の市民また、障害者手帳等所持の方、加えて、手帳等所持の方は、赤磐市内乗降に限らず、市外でも利用可)令和2年4月1日から75歳以上の方、おかやま愛カード所持者においては運賃を半額にし、利用促進を図ってきたが、ハレカハーフ導入に伴い、市民バス等においてもカード所持者においても運賃半額対象を拡大し、利用促進を図った。	A 運行計画に従い、適切に実施された。	A コロナ後、利用者の外出機会も年々増加傾向にあり、1,518人の利用があり、目標値の1,210人を上回った。(前年度は目標値1,210人に対し利用者が1,238人と目標を達成。) 路線ごとの分析結果は、西勢実・中勢実線と暮田・平山線は周匝まで路線を延伸した結果、8割以上が周匝周辺、また、仁堀停留所から広域路線バス(赤磐・美作線)への乗り換えで下市までの利用が多かった。 また、城南地域を運行している是里線及び河原屋線の路線では、定期的な買い物利用がそれぞれ増加、また、周匝停留所から広域路線バス(赤磐・美作線)への乗り換えで下市まで定期的に利用される方が増えたことにより、延べ利用者数が大幅に増加した。	仁美地域から周匝地域への移動ニーズに対応するため、令和4年4月1日から佐伯北診療所から周匝まで路線を延長した。従来からの利用者に加え、仁美地域から周匝までの利用者が増え、周匝への移動のニーズがさらに高まった。これにより、令和7年度より、新たに、周匝・福田・稲蒔・光木・塩木地域を追加し、吉井地域全域をデマンドエリアと設定し、併せて運行便数を増やし予約時間においても前日17時までは2時間前に短縮し利便性向上に努める。 併せて、熊山地域で令和6年12月から導入したAI予約システムを吉井・赤坂地域においても導入し、予約状況に応じた最適なルートを計算し、効率の良い運行を行い、更なる利便性向上に努める。 また、地域外への移動手段である広域路線バス赤磐・美作線について、R7から延伸及び市内の停留所を増設する。さらに地域外への移動手段の確保のため広域路線バス赤磐・瀬戸線の新設を行い、周匝上からJR瀬戸駅への乗り入れを行う。	【評価できる点】 ・地域住民の意見を反映し、運行車両(10人乗り)以外に、タクシー車両も活用し、より自宅付近での乗降を可能にした点は評価できる。 ・赤磐市ハレカハーフ(ICカード)を導入し、連携して利用促進を図った点は評価できる。  【期待する取組】 ・引き続き、これまで講じてきた利用促進策の効果や利用状況、地域住民の要望を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
	(有)荒嶋建設	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行(系統名 西勢実・中勢実線、暮田・平山線)					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
鏡野町公共交通会議	(株)中鉄北部バス	上齋原～マルナカ線	<p>R6.12月に時刻表の改正があり、周知および利用啓発のため奥津・上齋原・富地域の広報誌へ時刻表の折込を行った。</p> <p>R6.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。</p> <p>令和4年4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6年4月より、助成額の増額を行っている。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施された。	A 利用者数 目標 5,253人 (R4実績値の4%増) ⇒R6実績:5,577人 (目標対比:105.1%) 目標は達成した。	<p>町民の外出支援として定着しつつあるが、さらに新規利用者の発掘を検討する。高齢者の外出支援等、路線の見直しを検討していく。</p> <p>利用人数については、徐々に増加しており、今年度はコロナ禍以前の水準に回復している。結節点であるプラント5でのごんごバス西循環線への乗継ぎ、待ち時間等に改善点がないか、車内アンケート等で聞き取りを行い、さらなる利便性向上を検討する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実績値を上回る目標を設定している点は評価できる。</li> <li>高校生等通学助成事業の実施に併せて、中学校卒業を控えた3年生にバス利用を周知した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GTFSデータの整備により経路検索が可能となることで、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。</li> </ul>
	(株)中鉄北部バス	津山ごんごバス西循環線	<p>R6.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。</p> <p>令和4年4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6年4月より、助成額の増額を行っている。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施された。	A 利用者数 目標 15,285人 (R4実績値の2%増) ⇒R6実績:15,818人 (目標対比:103.5%) 目標は達成した。	<p>路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などの影響により、利用者人数がコロナ禍前の水準近くまで回復している。</p> <p>今後は、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの周知活動、車内アンケート等による聞き取りを行い、利用促進に努める。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
鏡野町公共交通会議	(株)中鉄北部バス	津山ごんごバスマルナカ西循環線	<p>令和5年4月から鏡野町内へ延伸する便を4便へ増便。鏡野町～津山市間の移動をよりスムーズに行えるようにダイヤ改正を行った。R6.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。</p> <p>令和4年4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6年4月より、助成額の増額を行っている。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 利用者数 目標 8,348人 (R4実績値の2%増) ⇒R6実績:8,087人 (目標対比:96.9%) 目標を下回った。	<p>路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などを実施してきたが、目標には達しなかった。</p> <p>今後は、沿線自治体と連携した利用促進、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの周知活動、車内アンケート等による聞き取りを行い、利用促進に努める。</p>	
吉備中央町地域公共交通会議	中鉄バス株式会社	<p>・総社南校北～宮前線</p> <p>・総社駅～妙仙寺線</p>	<p>・本路線を当町地域住民に周知すること併せて、運行路線の一部となる総社市地域住民へも周知するために総社市と連携し、当該区域の町内会を通じて広報を展開した。今後も、総社市との連携を強化し、利用者の増加を目指す。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標:令和4年度実績を維持する。5,470人(456人/月) 結果:4,698人(391人/月) 令和6年度は本路線を利用する総社南高校への進学者が減ったことにより、利用が減少した。	<p>主な利用者が総社南高校への通学者であり、進学先により利用者数の増減が著しい路線となっている。通学者を除いた利用者へ周知(吉備ケーブル等)を通じた方法を行っていく。</p> <p>10月に公共交通のニーズ調査を行いました。休日に対する声が多かったように感じました。総社市のイベント等に参加できるよう町内の交通体系について協議を行っていく。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学3年生を対象に、中学校で行われた高校進路説明会の場で保護者や生徒に対して路線バスの説明、利用促進及び補助制度の周知を行った点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学利用者に対してより利便性の高い交通サービスが提供されるとともに、地域の商店等との連携や、イベント等の実施に併せて利用促進を行うなど、通学利用者以外の利用者獲得に向けた取組を期待します。</li> </ul>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
笠岡市地域公共交通活性化協議会		(1)デマンド大島中線 大島中地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー	・福山・笠岡地域公共交通計画をR6年3月に策定。 ・ダイヤ改定等により利用利便向上を図る。 ・利便向上のための、交通ICカードICOCAを導入予定。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.2人/0.8人	目標の達成には至らなかった。さらなる利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。	【評価できる点】 ・交通安全フェスティバルへのバス車両の出展やラッピングバスの運行といった、バス車両を活用した利用促進策を実施している点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		(2)デマンド尾坂線 尾坂地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー		A 計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.0人/1.4人	尾坂地区の人口減少及び高齢化の加速で、利用者が減っているが、目標は達成できた。尾坂地区を含めた沿線の市民団体と協働で、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、また、ルート変更、ダイヤ改正等の検討を行い指標の改善を図ってまいりたい。	
		(3)美の浜線 美の浜地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A 計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.0人/1.0人	目標は達成できた。笠岡市交通交流センターの利用啓発を含めて、地域住民の利用促進及びマイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、利用定着を図ってまいりたい。また、利用の低い時間帯のダイヤについて、改廃等を検討する。	
		(4)大島線 大島地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A 計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.8人/2.1人	前回の実績から指標が改善傾向にあり、目標は達成できた。さらなる利便性向上及び、利用促進に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
笠岡市地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(5)神島寺間線 神島(寺間・外浦地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.8人/2.3人	目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(6)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。
		(6)神島見崎線 神島(見崎・寺間・外浦)地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 2.1人/3.5人	目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、さらなる利用者増に努める。また、(5)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。
		(7)神島外浦線 神島(外浦)地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 2.2人/2.2人	目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(5)(6)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。
		(8)城見台線 城見台団地～総合スポーツ公園～笠岡市民病院～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.5人/0.4人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改悪のため平均乗車密度が減少し、目標の達成には至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今後、乗降調査を実施しダイヤの改廃を検討する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
笠岡市地域公共交通活性化協議会		(9)今井循環線(※東西廻の平均値) 今井地区～富岡地区～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.1人/0.3人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改悪のため平均乗車密度が減少し、目標の達成には至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今後、乗降調査を実施しダイヤの改廃を検討する。
		(10)広東線 広東地区～金浦地区～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.1人/0.5人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改悪のため平均乗車密度が減少し、目標の達成には至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今後、乗降調査を実施しダイヤの改廃を検討する。
		(11)大井ハイランド・尾坂線 尾坂地区～大井ハイランド団地～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.0人/0.7人	目標の達成には至らなかった。ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
久米南町地域公共交通会議	(株)エスアールティー	町内全域	<p>運行事業者及び配車システムから得られるデータの活用により、詳細な利用状況の把握と利用実態の分析を行った。利用率の低いWEB予約の利用を促進するため、「スマホ教室」内で利用方法を周知した。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	<p>認知度の向上、利用の定着により、利用者数は目標19,050人/年に対し、19,564人/年と目標を上回った。貨物数は目標800件/年に対し、783件/年とわずかに目標を下回った。乗り合い率は目標値38%に対し、38%と目標を達成した。</p>	<p>さらなる運行効率化、利用者数増のため、引き続き利用状況の分析をしていく。時間帯ごとの利用状況データ等、利用者の参考となる情報の提供に努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スマホ教室」や地域おこし協力隊の実施する「デジタル相談室」を活用した周知を実施した点は評価できる。</li> <li>・利用対象者を町民以外へも拡大した点は評価できる。</li> <li>・主要乗降場所でのステッカーの掲出や、コミュニティセンター内のデジタルサイネージでの周知など、様々な場所で周知を行っている点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・配車システムや貨客混載等を活用し、より効率的で利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
井原市公共交通会議	井原市公共交通会議	<p>(1)井原市予約型乗合タクシー(芳井地区)</p> <p>(2)井原市予約型乗合タクシー(芳井地区)</p> <p>(3)井原市予約型乗合タクシー(美星地区)</p> <p>(4)井原市予約型乗合タクシー(美星地区)</p>	<p>・利用者だけでなく、利用時間帯や行き先などの利用状況を集計し、公共交通会議で報告、検証を行った。</p> <p>・民生委員を対象とした説明会を実施し、利用方法等の周知を図り、利用促進に努めた。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>①バスと予約型乗合タクシーの年間利用者数(目標値)297千人(実績値)261千人(87.9%)</p> <p>②予約型乗合タクシー「あいあいカー」の年間利用者数(目標値)3,200人(実績値)4,493人(140.4%)</p> <p>③予約型乗合タクシーの1便あたりの平均利用者数(目標値)1.2人/便(実績値)1.3人/便</p> <p>予約型乗合タクシーは、利用方法が定着したことなどから利用者数が増加し、目標値を達成した。市内公共交通全体の利用者数は、路線バス利用者の減少により目標値を達成できなかった。</p>	<p>・運行の効率化を図るため、引き続き利用状況の集計・検証を行う。</p> <p>・市民アンケート調査の結果を分析し、ニーズを把握するとともに、運行事業者の状況や市の財政負担等を踏まえ、運行内容の見直しを検討する。</p> <p>・公共交通会議広報誌「公共交通かわら版」の発行や地域での説明会等を実施し、利用方法等の周知を図り、利用促進に努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通に特化した「公共交通かわら版」による利用促進を図っている点は評価できる。</li> <li>・公共交通会議委員に8名の住民代表を委嘱し地域の意見や状況を把握している点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より層の利用者獲得に向けた取組を期待します。</li> </ul>



協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
美禰市地域公共交通協議会	美禰構内タクシー(株)	山中・堀越地区	令和5年10月から運行区域の拡大を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標9人/日に対し、8人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員への聞き取り調査やサロンを活用して、移動に困っている高齢者等を把握し、地道に周知活動を展開して利用者数の増加に努める。	【評価できる点】 ・利用周知と併せて利用登録会開催の取組を実施した点は評価できる。 ・市内のケーブルテレビを活用した動画の放映により、市民への周知活動に取り組んだ点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・地域の商店等との連携や、イベント等の実施に併せて利用促進を行うなど、利用機会を創出する取組に期待します。
	美禰第一交通(有)	美東地域北部	令和5年10月から運行区域の拡大を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定通りであったことから、日当たり輸送人員の目標6人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知し、利用者を増やす。現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。	
	(有)秋芳タクシー	秋芳地域南部	令和5年10月から運行区域の拡大等を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標6人/日に対し、3人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員への聞き取り調査やサロンを活用して、移動に困っている高齢者等を把握し、地道に周知活動を展開して利用者数の増加に努める。	
	美禰構内タクシー(株)	豊田前・西分	令和5年10月から運行区域の拡大等を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標8人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員への聞き取り調査やサロンを活用して、移動に困っている高齢者等を把握し、地道に周知活動を展開して利用者数の増加に努める。	
	美禰第一交通(有)	美東地域南部	令和5年10月から運行区域の拡大等を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当たり輸送人員の目標4人/日に対し、5人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知し、利用者を増やす。現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
美祢市地域公共交通協議会	(有)秋芳タクシー	秋芳地域北部	令和5年10月から運行区域の拡大等を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定通りであったことから、日当たり輸送人員の目標12人/日に対し、11人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員への聞き取り調査やサロンを活用して、移動に困っている高齢者等を把握し、地道に周知活動を展開して利用者数の増加に努める。	
	美祢構内タクシー(株)	厚保・西分	令和5年10月から運行区域の拡大及び名称変更を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標11人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員への聞き取り調査やサロンを活用して、移動に困っている高齢者等を把握し、地道に周知活動を展開して利用者数の増加に努める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
岩国市地域公共交通活性化再生法協議会	第一交通(株)	叶木線 (六呂師口～岩国駅)	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表及び公共交通マップを活用し周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	C (目標達成状況) JR岩国駅への接続を行うことにより利便性の向上に努めた。 また、利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 全系統における1運行当たりの利用者数は4.26人(対前年比-0.97人)となり、目標の6.00人を達成できなかった 各系統の個別の1運行当たりの利用者数としては、叶木線が5.59人(対前年比-1.11人)、二鹿線が5.78人(対前年比-1.41人)、持ヶ峠線が1.41人(対前年比-0.37人)となり、目標を達成できなかった。	今後も利用者のニーズに適したダイヤの見直しを検討するとともに啓蒙活動等の利用促進を行う。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・地域住民の意見を反映できる取組を期待します。
		二鹿線 (北河内駅～岩国駅)				C (効果達成状況) また、各路線においては、地域の公共交通空白地の解消と、高齢者等の移動手段の確保につながった。		
		持ヶ峠線 (小川津～岩国駅)				C		
岩国市		玖西循環線 (玖珂駅～玖珂駅)	JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定を行うことが利用者ニーズに即した運行となることから、引続きJR岩徳線のダイヤに合わせた運行ダイヤとなるよう調整を行った。 また、利用者への周知については、時刻表の全戸配布や主要施設等に設置するとともにホームページ等への掲載も行っている。 なお、岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表および公共交通マップも活用し周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	C (目標達成状況) JR岩徳線のダイヤ改正に合わせて運行時刻の調整を行っており、また利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 本年度の1運行あたりの利用者数は2.2人となったが、これは谷津上線が補助対象から外れたため、玖西循環線のみで計算しているため、人数が増加している。 しかしながら、玖西循環線のみで目標値を算出すると2.63人となり、目標を達成できなかった。 (効果達成状況) 地域全体においては、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者等の外出促進、地域住民の活動機会の確保につながっている。	2つの当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の確保など地域活性化に繋がっているものと考えられる。 このため、今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及びケーブルテレビやYouTube等を活用し啓蒙活動等の利用促進を行う。 また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることにより、持続可能な運行を目指す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
下関市地域公共交通協議会	下関市(豊田) 杣路子線	豊田総合支所 ～ 上杣路子		A	計画どおり事業は適切に実施された。	(4路線) 目標利用者数 2,409人/年 実績利用者数 2,464人/年 目標達成率 102.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活バス全路線1乗車ワンコイン(100円)化を継続。</li> <li>安心して利用できる環境の整備や、自治会へのチラシ配布、イベント時の意識啓発活動を行い、更なる利用促進を図る。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。</li> <li>地域のニーズを踏まえた運行ダイヤや経路、運行形態等の見直しを実施した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。</li> <li>地域住民の意見を反映できる取組を期待します。</li> </ul>
	下関市(豊田) 一の俣線	豊田総合支所 ～ 佐野	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関等への時刻表掲示や制度周知のチラシを作成し、運行区域の自治会へ回覧を実施。また、自治会アプリへ時刻表等を掲載し、利用促進を図った。</li> <li>定期的な車両内部の消毒・換気を行い、安心して利用できる環境作りに務めた。</li> <li>委託事業者よりヒアリングを行い、利用状況等の確認を実施した。</li> </ul>	A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(豊田) 今出線	豊田総合支所 ～ 地吉		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(豊田) 一の瀬線	豊田総合支所 ～ 中の瀬		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(菊川) 樅ノ木・保木線	バスターミナル ～ 樅ノ木	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会を通じてチラシを配布し、新たな利用者の確保に努めた。</li> <li>定期的な車両内部の消毒・換気を行い、安心して利用できる環境作りに務めた。</li> <li>委託事業者よりヒアリングを行い、利用状況等を確認し、地域のニーズを踏まえた運行ダイヤや経路、運行形態等の見直しを実施した。</li> </ul>	A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(菊川) 内日・田部循環線	バスターミナル ～ 内日下 ～ バスターミナル		A	計画どおり事業は適切に実施された。	児童クラブ移転による利用学生の減少により、当該路線の利用者が減少し、目標は達成できなかった。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
宇部市公共交通協議会	宇部市交通局	二侯瀬線	<p>運転免許証の自主返納者を対象に、デマンドバスのお試し無料乗車券を配布した。また、投票のための移動を支援するとともに、当該路線を利用するきっかけ作りのため、期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする等、利用促進に取り組んだ。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>目標は収支率4.0%、年間利用者数250人、稼働率30.0%のいずれかの達成であったが、実績は収支率1.7%、年間利用者数211人、稼働率16.0%でいずれの目標も達成できなかった。(R5収支率2.3%、年間利用者数219人、稼働率16.0%)</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする取組を実施した点は評価できる。</li> <li>・運転免許返納者を対象にお試し無料乗車券を配布して利用促進を実施した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> <li>・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、効果的だったものについては他の取組にも反映させることで、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
	船木鉄道㈱	吉部・万倉線	<p>運転免許証の自主返納者を対象に、デマンドバスのお試し無料乗車券を配布した。また、投票のための移動を支援するとともに、当該路線を利用するきっかけ作りのため、期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする等、利用促進に取り組んだ。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>目標は収支率4.0%、年間利用者数780人、稼働率47.5%のいずれかの達成であったが、実績は収支率2.9%、年間利用者数921人、稼働率46.7%で、年間利用者数の目標を達成した。</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	
	宇部山電タクシー㈱	西宇部線	<p>地域住民の意向を反映し、令和6年10月からの停留所新設とルート延伸に取り組んだ。事業者等から広告協賛を募ってチラシを作成し、地区内で全戸配布した他、協賛によりベンチを作成し、停留所に設置する取り組みを開始した。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>目標は収支率18.3%、年間利用者数1,260人のいずれかの達成であったが、実績は収支率10.3%、年間利用者数739人で、いずれの目標も達成できなかった。</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	
	宇部山電タクシー㈱	厚南線	<p>ルート上の各自治会長に毎月運行実績表を配布し、利用促進への協力を依頼した他、市民センターでの利用の呼び掛け等に取り組んだ。また、投票の移動支援のため、期日前投票での利用に限りコミタクの運賃を無料とした他、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>目標は収支率19.1%、年間利用者数2,540人のいずれかの達成であったが、実績は、収支率17.3%、年間利用者数2,571人で、年間利用者数の目標を達成した。</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通(株)	原線	令和5年10月にジャンボタクシーを導入し、利便性の向上を図った結果、好評であったため、他ルートへのジャンボタクシー導入を検討することとした。また、投票の移動支援のため、期日前投票での利用に限りコミタクの運賃を無料とした他、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標は収支率25.1%、年間利用者数1,290人のいずれかの達成であったが、実績は収支率31.5%、年間利用者数2,193人で、いずれの目標も達成できた。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、利便性の向上と周知啓発による利用促進を図る。
	宇部市交通局	東部市内循環線(めぐりーな)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。。また、小型車両により、目的施設への乗り入れができ、まちなかの移動の利便性向上を図ることができた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標は収支率41.7%、年間利用者数36,600人のいずれかの達成であったが、実績は収支率55.7%、年間利用者数48,814人で、いずれの目標も達成できた。	運行内容が定着し、利用者が増加しているので、周知活動を継続する。
	宇部市交通局	市街地循環線(車両減価償却費等国庫補助金対象車両を含む)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。。また、小型車両により、目的施設への乗り入れができ、まちなかの移動の利便性向上を図ることができた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標は収支23.1%、年間利用者数9,876人のいずれかの達成であったが、実績は収支率28.2%、年間利用者数13,209人で、いずれの目標も達成できた。	収支率が30%を下回っているが、前年度と横ばいとなっており、令和5年4月に実施した運行の見直しで一定の利用が確保できていると思われる。今後、利用者増加のため、周知活動を継続する。
	宇部第一交通(株)	桃山線	利用者の声や利用目的等を把握するため、コミタクの利用者に対してアンケートを実施した他、民生・児童委員の会議で、各民生委員にコミタクの周知啓発を依頼した。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	目標は収支率16.0%、年間利用者数2,300人のいずれかの達成であったが、実績は収支率12.4%、年間利用者数2,725人で、年間利用者数の目標を達成できた。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通(株)	東岐波線	地域住民の意向を反映し、令和6年10月からの停留所新設及びルート等の見直しに取り組んだ。地域の広報誌にコミタクの情報掲載して全戸配布し、民生委員等を通して、交通手段を持たない高齢者に周知した。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	目標は収支率24.8%、年間利用者数1,670人のいずれかの達成であったが、実績は、収支率16.0%、年間利用者数1,100人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	
	宇部山電タクシー(株)	藤山線	地域住民の意向を反映し、令和6年10月からの停留所新設とルート延伸に取り組んだ。チラシを刷新し、各停留所の近隣自治会に班回覧した他、民生・児童委員の会議での周知活動や、SNSでの情報発信に取り組んだ。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配布した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	目標は収支率20.0%、年間利用者数480人のいずれかの達成であったが、実績は収支率13.9%、年間利用者数391人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	
阿武町地域公共交通会議	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～宇生賀	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握し、他交通機関と連携を密行い、事業PRなどを実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	高校生の利用が想定を下回ったこと等により、輸送人員は目標140人/月に対し78人/月であった。	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握するとともに、デマンド型交通と地区間バスとの円滑な接続を図る。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 ・高校生の通学や学生ボランティア活用、町内行事の際に、町内バス料金の運賃補助を実施し、利用促進を実施している点は評価できる。
	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～福賀小前	住民自らが行う住民共助の交通支援体制を維持し、全町で地区間バスへの円滑な接続を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	日中の利用促進による増加が想定を下回り、輸送人員は目標160人/月に対し156人/日であった。	利用補助やイベントや施設での利用促進、PRを引き続き実施し、日中の利用の推進を図る。	【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果			
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果			
長門市公共交通協議会	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	俵山公民館～俵山地区～俵山公民館・長門市駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直し(便数の増加)を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内へ浸透しており、年間利用者数は目標3,300人に対し、3,349人と更に利用者増となった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるように運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	【評価できる点】 ・市内全域でデマンド出前講座を実施している点は評価できる。 ・運行事業者と連携し、地域住民の意見の反映や利用促進策を協議している点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。	
	特定非営利活動法人 むかつく	久津・上小田～向津具地区～久津・上小田	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	地域内に浸透しているが、高齢化による利用者の減少もあり、年間利用者数は目標1,800人に対し、1,343人であった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、高齢化による地域ニーズの変化に対応できるように運行内容の検討を引き続き行っていきたい。		
	古市タクシー有限会社	人丸駅～日置地区～人丸駅	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。乗降場所の追加、一部の時間帯の運行ダイヤを廃止し、いつでも利用できるオンデマンド運行を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への浸透、運行体系の改正により、利用者が増加し、年間利用者数は目標4,100人に対し、4,954人であった。	オンデマンド運行を引き続き行っていき、利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズに対応していきたい。		
	新日本観光交通株式会社	洪水・真木～長門市中心市街地	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系の見直し、地域内への周知により、年間利用者数は目標1,200人に対し、1,145人であり、概ね目標を達成した。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるように運行内容の検討を引き続き行っていきたい。		
			三隅～長門市中心市街地	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への周知が浸透し、年間利用者数は目標1,600人に対し、2,118人と大幅な利用者増となった。		地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行ってほしい。
		人丸タクシー株式会社	人丸駅～油谷後畑～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系の見直し、地域内への周知により、年間利用者数は目標1,000人に対し、945人であり、概ね目標を達成した。		地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行ってほしい。



協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
長門市公共交通協議会	富士第一交通株式会社	深川湯本～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、運行体系の見直し(ダイヤの見直し・増便)を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系の見直し、地域内への周知により、年間利用者数は目標300人に対し、1,885人となり、大幅に利用者が増加した。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。	
		黄波戸・西深川～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、運行体系の見直し(ダイヤの見直し・増便)を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系の見直し、地域内への周知、地域内のバス路線廃止により、年間利用者数は目標650人に対し、2,237人となり、大幅に利用者が増加した。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。	
	長門山電タクシー株式会社	青海島～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、運行体系の見直し(ダイヤの見直し・増便)を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系の見直し、地域内への周知により、年間利用者数は目標2,400人に対し、3,210人となり、大幅に利用者が増加した。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていききたい	
柳井市地域公共交通会議	柳井三和交通㈱	I系統 日積地区	・運行主体、運行事業者、自治体が連携し、運行状況の情報共有を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標200人/月に対し、223人/月だった。	利用者数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施したアンケートををもとに乗降場所の追加及び運行ダイヤの見直しを実施した点は評価できる。</li> </ul> <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果を上げることができた要因について引き続き分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</li> </ul>
		II系統 大島地区	・運行主体、運行事業者、自治体が連携し、運行状況の情報共有を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標180人/月に対し、186人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	
		III系統 伊陸地区	・運行主体、運行事業者、自治体が連携し、運行状況の情報共有を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標150人/月に対し、160人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	
	柳井第一交通㈱	IV系統 阿月地区	・運行主体、運行事業者、自治体が連携し、運行状況の情報共有を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標120人/月に対し、162人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
山陽小野田市地域公共交通協議会	小野田第一交通(株)	松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線 湯の峠・陽光台・山川線	・市のホームページや窓口での周知に加え、チラシの配布により周知の強化に努めるとともに、アンケート調査を実施し、利用者のニーズを把握しながら、一層の利用促進策の検討に努めている。	A	事業は、計画どおり適切に実施された。	B	(松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線) 輸送人員は目標5人/日に対し、4.3人/日であった。コロナ禍による外出自粛の影響が長期化し、利用頻度の高い高齢者が死亡や施設入所したこと等により、目標値を下回ったが、事業者と連携した周知により、昨年度(4.6人/日)とほぼ横ばいの結果となった。  (湯の峠・陽光台・山川線) 輸送人員は目標14人/日に対し、11.6人/日であった。コロナ禍による外出自粛の影響が長期化し、利用頻度の高い高齢者が死亡や施設入所したこと等により、目標値を下回ったが、事業者と連携した周知により、昨年度(12.3人/日)とほぼ横ばいの結果となった。	これまでの自治会を通じた周知に加え、民生委員やケアマネージャー等、地域に寄り添った活動をされている方へきめ細かい広報を行う。また、アンケート調査による利便性の向上等を通じ、利用者の拡大を図る。	【評価できる点】 ・新たに民生委員やケアマネージャー等、地域に寄り添った活動をされている方へ周知を行った点は評価できる。 ・運行上の課題や利用者ニーズの把握を目的として、定期的に運行事業者と意見交換を実施している点は評価できる。  【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・地域の商店等との連携や、イベント等の実施に併せて利用促進を行うなど、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
	小野田第一交通(株)	高泊地域	—	A	事業は、計画どおり適切に実施された。	A	輸送人員は目標6人/日に対し、6.8人/日であった。本格運行開始から周知に努めたこと等により、地域に浸透してきており、目標値を上回る結果となった。	これまでの自治会を通じた周知に加え、民生委員やケアマネージャー等、地域に寄り添った活動をされている方へきめ細かい広報を行う。また、アンケート調査による利便性の向上等を通じ、利用者の拡大を図る。	
田布施町地域公共交通協議会	田布施町社会福祉協議会	城南・西・東田布施系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用や各公民館等に事業説明を行った。 また、必要に応じて聞き取り調査を実施。	A	計画どおり適切に実施	A	全系統の稼働日数の目標月平均15日以上、実績月平均15.5日。  利用者数の目標値は月平均55人以上、実績月平均63.4人。	R7.1.31で買い物送迎サービスは終了し、R7.2.3より予約型定額乗合タクシーへと移行する。 それに伴い、買い物送迎サービス利用者が予約型定額乗合タクシーへとスムーズに移行できるよう、利用者への制度説明や手続等を行っていく。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 ・JR駅への乗継に係る利用者数を目標に設定している点は評価できる。  【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
		麻郷・麻里府系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用や各公民館等に事業説明を行った。 また、必要に応じて聞き取り調査を実施。	A	計画どおり適切に実施	A	JR田布施駅への乗継ぎに係る利用者数は昨年度月平均6人、実績月平均9.25人。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
周南市地域公共交通協議会	周南市	大道理・須々万線 (河内～大道理・夢求の里交流館～高原病院)	「成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた事については、地域からの要望を受け、運行日に火曜日を追加したことが増加要因の一つと考えている。引き続き、運行受託事業者(地元協議会)を通じて、地域のニーズの把握に努める。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ▶目標達成状況 設定目標1ヶ月あたりの利用者数108人に対し、実績は99人であった。 ▶効果達成状況 特に自家用車を所有していない市民の病院や商業施設などが集積している地域への移動手段を確保・維持することができた。	・引き続き関係者と連携して地域のニーズ等の把握に努め、運行ダイヤや乗降場所など住民が利用しやすい運行内容となるよう実施する。 ・新規利用者の獲得に向け、利用案内の配布等により周知を行う。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 ・地域住民の意見を反映し、停留所の追加やより安全かつ効率的な運行が行える車両を導入した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・病院や商業施設などと連携し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
光市地域公共交通協議会	【10月～3月】 西日本バスネットサービス株式会社 【4月～9月】 周南近鉄タクシー株式会社	光駅～光市役所前～光駅	・毎月の利用者数モニタリング ・光市公共交通マップの改訂及び時刻表とともに沿線施設への設置による利用啓発 ・光市高齢者バス・タクシー運賃助成事業の実施による利用促進	A 8月30日に台風により終日(6便)運休が発生したが、事業は適切に実施された。	B 【目標達成状況】 1便あたりの利用者104人の目標設定に対し、実績7.6人となり目標値を達成できなかった。 【効果達成状況】 光市公共交通マップの市内公共施設への設置や光市高齢者バス・タクシー運賃助成事業の実施により利用促進を図り、高齢者等の西部地域住民を中心とした利用者の移動手段を確保維持することができた。	公共交通マップの改訂を行い、公共施設や駅などへ設置。また、インターネット経路検索用バス情報フォーマットを整備し、インターネットやスマートフォンでの経路検索などへ対応することで、本路線の利用促進を図り、目標達成を目指す。	【評価できる点】 ・運転免許を持っていない高齢者へのバス・タクシー運賃助成パイロット事業を実施し、本格実施へ移行した点は評価できる。 ・増便及びダイヤ改正に合わせて広報を実施した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・地域の商店等や病院などと連携し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。
下松市地域公共交通活性化協議会	下松市	米川・花岡線	米泉号には、予約エリアという概念が存在し、①北エリアでは月、水、金②中央エリアでは火、木、土に予約を行うと乗車できるシステムが存在した。しかし、住民アンケートや乗降データの分析の結果、北エリアと中央エリアの予約利用者数の偏りが激しいことが判明した。(北エリア：中央エリア≒2:98) また、予約エリアの曜日指定の撤廃を望む住民の声が多数存在したことから、今年度、予約エリアの概念を廃止し、北エリア、中央エリアにおいては全曜日で予約をすることを可能とした。	A 計画事業は適切に実施された。	A 令和6年度の目標値は確保維持計画に記載した定量的目標を達成した。  ((【参考】目標設定：1か月あたり利用者数65人⇔実績値：国庫補助対象便が年間376便あり、895人が利用(1か月あたり利用者数74人))	・住民のニーズや意見等を反映し、定時定路線と区域運行を併用した運行形態として実施していることから、どちらの運行形態の地区においても地域への認知度を向上させることにより、更なる利用者の掘り起こしを行う。 ・さらなる新規利用者開拓のため、無料乗車ウィークのイベントを実施する。 ・地域の公民館行事などと連携し、利用促進に繋がる施策を連携して行う。 ・これまで行ったアンケート等の利用者の意見を踏まえたダイヤ設計の検討を行う。	【評価できる点】 ・住民アンケートだけでなく乗降データも分析し、曜日指定を廃止した点は評価できる。 【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・新規利用者の獲得に向け、より多様な関係者と連携した取組を期待します。